

保育における幼児と高齢者の世代間交流

— 幼稚園の保護者・保育者に対する調査から —

Intergenerational exchanges between children and the elderly in kindergartens
— Based on a survey of parents and teachers —

徳田 多佳子* 請川 滋大**
Takako TOKUTA Shigehiro UKEGAWA

要約 実際に世代間交流を行っている幼稚園の協力を得て、保護者と保育者各々に対して世代間交流に関する思いについての自由記述式質問紙調査を行った。その結果、ほとんどの保護者から知育と徳育に有効な取り組みとして認識され、「昔遊び」などの文化や伝統の維持に世代間交流の意義が認知されており、今後の期待では徳育が重要視されていた。しかしながら、感染症やセキュリティの問題を危惧する声もあり、交流を行える態勢に配慮することも重要であると考えられた。一方、保育者は高齢者への優しさ等の徳育に関し、世代間交流の意義を認めていることが明らかになった。今後の期待については楽しい時間と答えたものが多数を占め、保護者の期待とは乖離が見られた。またカリキュラムへの時間的な影響や、子ども的高齢者に対する礼儀や心理的負担を危惧しており、交流を計画する際に内容的な準備だけでなく、本質的な準備や対策について留意する重要性が示唆された。

キーワード：幼稚園児と高齢者の世代間交流、幼児教育、知育、徳育

Abstract Parents and kindergarten teachers were, with the help of kindergartens that carry out intergenerational exchanges, surveyed regarding their opinions towards intergenerational exchanges. Results indicated that most teachers regard the exchanges as beneficial for intellectual and moral education, they recognize the significance of the exchanges in preserving culture and tradition such as traditional games, and they attach great importance to moral education in terms of future expectations. However, concerns about infectious diseases and security were mentioned. Results also indicated that the teachers regard the exchanges as beneficial particularly for moral education, i.e. by fostering children's kindness towards the elderly. Teachers' future expectations, however, were mostly about having fun, differing from the expectations of parents. Concerns about the time constraints in the curriculum, children's attitudes towards the elderly, and psychological burdens on the elderly were also mentioned. Substantive preparations and measures are needed when planning exchanges.

Key words : Intergenerational exchange between kindergarten children and the elderly,
Kindergarten education, Intellectual education, Moral education

1. はじめに

1-1. 問題の背景

日本において、少子高齢化が急速に進んでいる¹⁾。一方核家族化も進み、三世帯同居の世帯数は過去30年間で約4分の1に減少し、2017年の調査では

* 学術研究員
Academic Research Fellow
** 児童学科
Child studies

全体の約11%と報告されている³⁾。実際に、現在子育て中の半数以上の親が既に核家族で育った世代であり、祖父母との同居経験をもたずに成長している。このような現状において祖父母と孫が共に過ごす時間は少なくなり、加えて地域社会の人間関係も近年希薄化する中、高齢者と子どもが接する機会もまた減少している。子どもたちは、祖父母を含む高齢者を通じて学んできた社会習慣や伝統、文化などの経験を十分に得ずして成長していく。この社会背景のもと、現在まだ少数ではあるが、いくつかの保育施設で幼児と高齢者^{注1)}の世代間交流^{注2)}が正規の保育時間内に行われている。しかしながら実践されている園は、保育所と保育所型の認定こども園に偏っており、その原因について菅谷(2014)は、交流が同一法人内での実施が多いことに起因するのではないかと分析している⁴⁾。

1-2. 幼稚園教育要領等における記載

2017年に告示された、幼稚園教育要領(以下、教育要領)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(以下、教育・保育要領)、及び保育所保育指針(以下、保育指針)には、幼児の人間関係を育むために「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(通称10の姿)のひとつとして、「社会生活との関わり」についての文章が記載されている。そこには幼児期が、家庭を核として地域の人たちとふれあうことで身近な人間関係を広げ、地域社会に親しみをもつ段階であると捉えられている。幼児期においてはこうした交流の体験からなされる情報交換を自分に結びつけ、活用し、社会生活をふみ出すことが重視されている。幼児の成長は家庭を基盤にして地域社会を通して広がりをもつことから、家庭と地域の連携を図り地域の自然、人材、行事、公共施設などを積極的に活用し、保育の場においても幼児が豊かな生活体験を得られるように工夫することが求められている。

1-3. 先行研究

学術データベースCiNiiを利用して、幼稚園で行われている高齢者との世代間交流について論文検索を試みた。「幼児」、「高齢者」、「幼稚園」、「保育」、「(異)世代間交流」、「合築」、「複合」など、関連する複数のキーワードの組み合わせから計46本が上がったが、幼稚園や幼稚園型認定こども園を対象に書かれた論文や研究は見当たらない。高齢者との関わりは、教育要領、教育・保育要領、保育指針の3つに共通する内容項目でありながら、幼稚園におけ

る相互交流の調査や研究は、ほとんど行われていないのが現状である。幼稚園からの報告は、2017年度に単年で行われた京都市立みづば幼稚園と特別養護老人ホーム京都市小川の1例のみであった⁵⁾。この事業の継続計画はない。

以上のように先行研究では、幼稚園における幼児と高齢者の世代間交流についての検証、交流に介在する保育者について向き合う研究がなされてきたとは言いがたい。

そこで本研究では、実際に世代間交流をカリキュラムに取り入れ積極的に実施している幼稚園の協力を得て、保育における幼児と高齢者の世代間交流に焦点を当て、保護者と保育者を対象に交流についての思いを分析するべく自由記述式の質問紙調査を行った。

2. 調査の概要

2-1. 自由記述式質問紙調査

2-1-1. 保護者を対象とした調査(A)

対象者：N幼稚園に在籍する園児の保護者

関東地方東部に位置するN幼稚園は、学校法人と社会福祉法人特別養護老人ホームを3階建てで合築し、公道の向かいにはデイサービスセンターがある。調査期間：2017年11月上旬から中旬

配布数320部

回答用紙は園長先生を通して配布・回収を依頼した(子どもが複数在籍する場合には、年齢が上の子について回答するように指示)。

回答数：有効回答数196部(61.3%)

回答者の内訳：母親191人、父親5人

質問項目

- A1 幼稚園で行われる高齢者との交流についてのメリット
- A2 幼稚園で行われる高齢者との交流についてのデメリット
- A3 交流がどんな内容だったらいいと思うか
- A4 自分の子が保育の中で高齢者と交流することに何を期待しているか

2-1-2. 保育者を対象とした調査(B)

対象者：N幼稚園(前述)、Sこども園、D幼稚園で、世代間交流を担当している保育者

Sこども園は関東地方中心部に位置し、定員の7割が1号認定児の幼保連携型認定こども園である。学校法人と公立高齢者通所施設が合築する7階建て

Table 1 (A1) Parents' views on the merits of intergenerational exchanges involving children in kindergarten

大カテゴリー	中カテゴリー	小カテゴリー	概念	
良い取り組み (208) 82.0%	良い(8)	良い(8)	良い(8)	
	楽しいこと(24)	楽しいこと(24)	家庭での会話から伝わる交流の楽しさ(24)	
	子どもの精神面での発達に良い経験(81)	子どもの成長にプラス(2)	子どもの成長にプラス(2)	子どもの成長にプラス(1)
			高齢者を助ける看護士になる夢を獲得(1)	
		異世代に対するコミュニケーション力の発達(5)	高齢者とのコミュニケーション力の獲得(3)	異世代とのコミュニケーション力の獲得(2)
			優しい心の獲得(18)	
		情緒的発達に良い経験(34)	思いやりの心の獲得(10)	いたわる気持ちを養う機会(4)
			情緒の豊かさの獲得(1)	情緒の豊かさの獲得(1)
	素直な心の獲得(1)		素直な心の獲得(1)	
	日頃の成果の発表の場(14)		日頃の成果の発表の場(14)	
	高齢者に対する情緒的発達(39)	高齢者をいたわる気持ちを養う機会(11)	高齢者をいたわる気持ちを養う機会(11)	
		高齢者に対する優しい心の獲得(7)	高齢者に対する優しい心の獲得(7)	
		高齢者に対する思いやりの心の獲得(5)	高齢者に対する思いやりの心の獲得(5)	
		高齢者に対する敬いの心の獲得(2)	高齢者に対する敬いの心の獲得(2)	
	社会貢献的経験の獲得(1)	社会貢献的経験の獲得(1)	他人に貢献する喜びを知る機会(1)	
新しい知識の獲得(38)	高齢者から学びの機会(25)	高齢者からの学びの機会(8)	高齢者からの学びの機会(8)	
		高齢者からの昔遊びを学ぶ機会(14)	高齢者からの昔遊びを学ぶ機会(14)	
	高齢者の話から学びを得る機会(2)	高齢者の話から学びを得る機会(2)		
	高齢者から礼儀を学ぶ機会(1)	高齢者から礼儀を学ぶ機会(1)		
高齢に対する知識の獲得(5)	高齢者の体の衰えを知る機会(4)	高齢者の体の衰えを知る機会(4)		
	高齢者に対する認識の深まり(1)	高齢者に対する認識の深まり(1)		
子どもの視野が広がる機会(8)	子どもの視野が広がる機会(8)	多様な人がいる認識を深める機会(3)	多様な人がいる認識を深める機会(3)	
		子どもの世界が広がる良い機会(3)	子どもの世界が広がる良い機会(3)	
高齢者と接する貴重な機会(46)	高齢者と接する貴重な機会(46)	イベントの一つとして園生活でのメリハリ(2)	イベントの一つとして園生活でのメリハリ(2)	
		高齢者と接する貴重な機会(26)	高齢者と接する貴重な機会(26)	
		高齢者と自然に接する貴重な機会(8)	高齢者と自然に接する貴重な機会(8)	
		祖父母以外の高齢者を知る貴重な機会(3)	祖父母以外の高齢者を知る貴重な機会(3)	
		高齢者から世話を受ける貴重な体験(3)	高齢者から世話を受ける貴重な体験(3)	
		異世代間交流を得る良い機会(3)	異世代間交流を得る良い機会(3)	
高齢者と子どもの双方に良い経験(16)	高齢者と子どもの双方に良い経験(16)	身体障害を知る機会(3)	身体障害を知る機会(3)	
		高齢者、子ども双方にとって良い機会(9)	高齢者、子ども双方にとって良い機会(9)	
高齢者にとって良い経験(5)	高齢者にとって良い経験(5)	子どもが楽しみを得る機会(7)	子どもが楽しみを得る機会(7)	
交流への要望 (11) 4.3%	交流充実への要望(11)	高齢者にも良い刺激(5)	高齢者にも良い刺激(5)	
		交流の継続希望(2)	交流の継続希望(2)	
		回数の増加の希望(8)	回数の増加の希望(8)	
特になし(25) 9.8%	特になし(25)	情報希望(1)	情報希望(1)	
		特になし(25)	特になし(25)	
その他(1) 0.0%	その他(1)	その他(1)	しかられる関係も必要(1)	

で、両施設の管理運営は同じ系列団体が行っている。建物は1-2階がこども園、3階が交流フロア、4-5階が高齢者施設であり、最上階にはプールが設置されている。内部移動が可能で、プールは保育でも通年使用している。

D 幼稚園は関東地方西部の私立園で、敷地内に学校法人の他、社会福祉法人高齢者施設(特養ホーム等)と保育所を併設する。それぞれの建物の形状は幼稚園が2階建て、保育所は平屋でそれぞれ独立し、特別養護老人ホームと介護程度の低い高齢者入居施設のデイケアセンター、通所施設のデイサービスセンターが合築となっている。

調査期間：2017年5月中旬から6月中旬
配布数：72部

回答用紙は園長先生や担当教諭を通して配布・回収を依頼した。

回答数：有効回答数43部(59.7%)

回答者の属性：男4人9.3%、女39人90.7%

20代が58.1%で約6割を占めた。経験年数は5年以下が半数以上だが、30年超のキャリア保持者からの回答もあった。

質問項目

- B1 定期的に交流することの幼児へのメリット
- B2 定期的に交流することの幼児へのデメリット
- B3 交流に対して幼児に期待すること
- B4 交流の経験から、子どもが変化したこと(+・-どちらでも)、感じたこと
- B5 交流のためにあらかじめ準備していること(もの)

Table 2 (B1) Teachers' views on the merits of intergenerational exchanges involving children in kindergarten

大カテゴリー	中カテゴリー	概念
感情 (27) 55.8%	望ましい心(19)	思いやりの心が芽生える(4)
		優しい気持ちになる(3)
		高齢者に親しみをもつ(2)
		いたわりの気持ちが芽生える(1)
		高齢者を尊敬する(1)
		高齢者を大切に思う(1)
		高齢者に興味・関心をもつ(1)
		様々な知識が身につく(1)
		他者への興味をもつ(1)
		高齢者への緊張感がなくなる(1)
		高齢の方に対して抵抗などがなくなる(1)
		ふれあうことのない人にも抵抗なくなる(1)
	お友だちにも優しくできるようになる(1)	
	対応力(4)	様々な年代の人と関われる力が身につく(1)
		地域の方と交わることができる力が身につく(1)
幅広い年代の方と関われるようになる(1)		
広い心(4)	昔ながらの知識を広く知る(1)	
	心が豊かになる(1)	
	子どもの視野が広がる(1)	
	他者への興味をもてる(1)	
体験 (13) 26.2%	高齢者から温かく接してもらおう(4)	心に広がり生まれる(1)
		優しく接されて、叱ってもらおう(1)
		話を聞いてもらえたりする(1)
	高齢者に優しく接する(2)	顔見知りになることで、見守ってもらおう(1)
		話をしたり甘えたり、温かい時間を過ごせる(1)
	いつもと違う体験(7)	何か助けたい気持ちになること(1)
		いろいろな境遇の方を知る良い経験(1)
		親や保育者以外の人と関わる良い経験(2)
		親や先生からとは異なる年齢層の学び(1)
		家族以外の地域の方々と顔見知りになれる(1)
知識 (9) 18.0%	高齢者について(8)	良い意味での緊張感(1)
		いろいろな人との出会い(1)
		園生活だけでは経験できない貴重な時間(1)
		高齢の方の温かさ、優しさ(1)
		世の中には様々な人や世代の人がいること(1)
		自分の祖父母よりもっと高齢の方がいること(1)
		いろいろなベース、思い、知っていることが多いなどの人がいること(1)
		いろいろな世代の人がいるということ(1)
	高齢者への理解が深まる(1)	
他の子どもが高齢者への接し方を見て学ぶ(1)		
TPO(1)	命について(1)	
	場所によっては静かにするということ(1)	

2-2. 分析方法

回答は内容をもとにカテゴリー分類を行い、各カテゴリーの類似性、相違性を検討した。その作業を繰り返すことで最終的なカテゴリーを生成し、コード化を行った。以下、分類した大カテゴリーを【 】, 中カテゴリーを < >, 概念を「 」で表す。

3. 結果

3-1. 世代間交流のメリット (A1, A3, B1, B4)

A1 では保護者に世代間交流のメリットを尋ね、

Table 1 にまとめた。意見のほとんどが【良い取り組み】に分類できる内容であったが、【特になし】という回答も約 1 割あった。【良い取り組み】は具体的に〈楽しいこと〉、〈子どもの精神面での発達に良い経験〉、〈新しい知識の獲得〉、〈高齢者と接する貴重な機会〉、〈高齢者と子どもの双方に良い経験〉、〈高齢者にとって良い経験〉にまとめられ、〈交流充実への要望〉は幼稚園に対する要望の意見であった。

B1 では保育者に世代間交流のメリットを尋ね、Table 2 にまとめた。結果は【感情】、【体験】、【知識】

Table 3 (B4) Changes in children as perceived by teachers

大カテゴリー	中カテゴリー	概念
高齢者に対する親しみの育み (22) 59.5%	高齢者と自然なふれあい(9)	交流を重ねるうちに、自然とふれ合うことができるようになった(5)
		高齢者に親しみをもつようになった(3)
		自然に高齢者の手をとり、ひざの上に乗ったりする姿が見られる(1)
	高齢者との積極的ふれあい(9)	高齢者に会うと「こんにちは」と挨拶することが増えた(3)
		交流後、高齢者を意識して手をふったり笑顔を向けたりしていた(2)
		交流の時間に何をしようか楽しみにするようになった(1)
		自分から挨拶してかけ寄る姿が見られるようになった(1)
		自由遊びの時間でも積極的に自分から関わりに行く姿が見られた(1)
	高齢者との交流に対する喜び(3)	顔見知りになった高齢者を気にかけるようになった(1)
		日々の中で「また会いたい」と言う(1)
高齢者に対する不安の払拭(1)	会えると喜ぶ姿が見られるようになった(1)	
	ハイタッチを子どもから要求するようになった(1)	
精神的成長 (15) 40.5%	他者に対する関心(12)	高齢者に対して安心感を得るようになっていく(1)
		思いやりをもつようになった(4)
		教わった昔遊びで遊ぶ(3)
		子どもが良い意味で周りに気遣うようになった(2)
	自信の獲得(3)	自分の祖父母にも興味をもつようになった(2)
		色々な人に信頼感をもつようになった(1)
		交流の経験が自信につながっている(3)

Table 4 (B2) Teachers' views on the demerits of intergenerational exchanges involving children in kindergarten

大カテゴリー	中カテゴリー	概念
保育への影響(8) 34.8%	保育への影響(8)	カリキュラムへの影響(2)
		行事前の練習時間減少(1)
		身体を動かしての発散時間減少(1)
		他活動の時間減少(1)
		集中している遊びの中断(1)
		保育の流れの変化(1)
交流することでの心配 (10) 43.5%	子どもの高齢者に対する接し方の問題(7)	交流の理解が子どもには難しい(1)
		慣れによる言動の粗雑(2)
		交流への気持ちの維持が困難(1)
		けがをさせてしまわないかの不安(1)
		親切心やおもいやりの麻痺(1)
	高齢者の子どもに対する接し方の問題(3)	過度な甘え(1)
		保育者と異なる注意の仕方を子どもが理解困難(1)
		過保護(1)
		声が大きいことでの恐怖感(1)
		見慣れないことでの苦手意識(1)
心理的な負担(5) 21.7%	心理的な負担(5)	交流が苦手(3)
		人見知り(1)
		祖父母に会えない寂しさの増強(1)

の3つに大別できた。中でも〈望ましい心〉として、高齢者への思いやりや優しさというように、感受性を育む意見が多く出された。

A3 では保護者に良いと思う交流内容を聞いたところ、回答は「おしゃべり(66)」と具体的な遊びを指定しない「昔遊び(66)」が最も多く、同数であった。次に「折り紙(47)」、「歌(41)」と「手遊び(41)」が続く、その下の「子どもの発表会(19)」を約 20 上回っていた。また、様々な遊びの内容が上げられる一方で、「何でも良い(9)」や「現状維持(4)」という意見も

見られた。

B4 では交流の園児への影響について保育者に尋ね、Table 3 にまとめた。「交流を重ねるうちに、自然とふれ合うことができるようになった」や「思いやりをもつようになった」、「高齢者に親しみをもつようになった」、「高齢者に会うと挨拶することが増えた」などの意見が複数出され、【高齢者に対する親しみの育み】にまとまる意見が 6 割近く上がった。

Table 5 (A4) Parents' expectations of intergenerational exchanges involving children

大カテゴリー	中カテゴリー	概念		
経験(37) 14.2%	癒しの経験(2)	高齢者から癒しの獲得(2)		
		多種多様な人の存在の理解(23)		
	社会的経験(29)	良い経験(3)		
		祖父母との疑似体験(1)		
		幼稚園での生活に対する期待の高まり(1)		
		母の仕事(介護職)への理解(1)		
		自然な交流(3)		
	発達に寄与する経験(6)	人格形成(2)		
		今後の価値観を得るヒント(1)		
		優しい心の育成(53)		
感受性育成(188) 72.0%	感受性育成(188)	他者に対する思いやりの獲得(31)		
		高齢者に対する思いやり(25)		
		高齢者に対する敬意(21)		
		高齢者に対するいたわりの獲得(11)		
		他者に対する思いやりの獲得(11)		
		高齢者に対する理解獲得(11)		
		弱者に対するいたわりの獲得(7)		
		弱い立場の人への配慮(5)		
		心の育ち(5)		
		助け合いの精神(3)		
		他者に対するいたわりの獲得(2)		
		高齢者への優しさ(2)		
		他者に対する親切心のはぐくみ(1)		
		知識(13) 5.0%	高齢者からの知識の獲得(13)	昔の知恵や経験談(6)
				高齢者からの知識の学び(2)
昔の遊びの学び(2)				
語句力アップ(1)				
生きる力の獲得(1)				
協調性の獲得(1)				
対人関係の適応力アップ(7)				
社会性の発達(21) 8.0%	社会的能力の獲得(11)	自己効力感の獲得(1)		
		社会性の獲得(1)		
		社交性の向上(1)		
		社会勉強(1)		
		目上への礼儀礼節(6)		
	礼儀礼節の獲得(10)	高齢者に対する態度の獲得(4)		
		期待なし(2) 0.8%	期待なし(2)	
		期待なし(2) 0.8%	期待なし(1)	
		期待なし(2) 0.8%	特になし(1)	

3-2. 世代間交流のデメリット (A2, B2)

A2 では保護者に世代間交流のデメリットについて尋ねたところ、回答の 80.2%が〈特になし〉であった。しかし、デメリットを指摘する意見も出された。デメリットで一番多く上げられたのは〈感染症(の心配)〉11.7%であり、〈セキュリティ〉1.5%、〈その他〉6.6%と続いている。

B2 では保育者に世代間交流のデメリットについて尋ね、回答を Table 4 にまとめた。「カリキュラムへの影響」をはじめとする、【保育への影響】を懸念する意見が見られた。また、交流することに苦手意識をもつ子どもへの懸念等、子どもの【心理的な負担】を懸念する指摘も上げられた。

3-3. 世代間交流について、保護者と保育者それぞれの期待 (A4, B3, B5)

A4 では保護者が保育中の交流に期待することを尋ね、Table 5 にまとめた。【感受性育成】を期待する回答が最多であるが、とりわけ「優しい心の育成」を上げる意見が多く見られた。次に思いやりや敬意、いたわりを身につけてほしいという意見が続いた。〈社会的経験〉としては、「多種多様な人の存在の理解」を望む意見が多く上がった。

B3 では交流で幼児に期待することを保育者に尋ね、Table 6 にまとめた。「おしゃべりを楽しむ」、「ふれあい遊びを楽しむ」、「高齢者の方が小さい頃に遊んでいた遊び」、「高齢者の話を聞く」等が多く上げ

Table 6 (B3) Teachers' expectations of intergenerational exchanges involving children

大カテゴリー	中カテゴリー	概念
楽しい時間(61) 54.0%	スキンシップ(31)	ふれあい遊びを楽しむ(13)
		高齢者の温かさを感じる(7)
		手を握ったり優しく触れる(5)
		スキンシップを楽しむ(4)
		高齢者に甘えてほしい(1)
	安心感を感じる(1)	
おしゃべり(29)	おしゃべりを楽しむ(19)	
	高齢者の話を聞く(10)	
おやつ(1)	一緒におやつを食べる(1)	
一緒に遊ぶ(20) 17.7%	昔の遊びを教わる(14)	高齢者の方が小さい頃に遊んでいた遊び(11)
		昔の遊びに親しみをもつ(1)
		折り紙(1)
		昔ながらのおもちゃ(1)
	歌(3)	手遊び(2)
	製作(3)	童謡を歌う(1)
経験する(22) 19.5%	高齢者への接し方(15)	一緒に作る(3)
		高齢者に対し優しく接する(7)
		いたわる(3)
		自然な自分を出せる存在だと分かる(1)
		高齢者の方たちへの理解を深める(1)
		親しみをもつ(1)
	交流を大切にす(1)	
	敬意をもつ(1)	
	相手の気持ちに気づく(7)	高齢者の穏やかさ(4)
		感情があるということ(1)
		自分が高齢者を笑顔にできる(1)
自分に会うのを喜ぶ人の存在を知る(1)		
お年寄りを敬う気持ちを育む(1)		
育ちへの願い(10) 8.8%	こんな子どもになってほしい(8)	保育時間外でも自然に関われる(1)
		相手に思いやりがもてる(1)
		初めての方でも笑顔で接することができる(1)
		初めて出会う方でも親切にできる(1)
		幼稚園以外の場所でも高齢者と会話ができる(1)
		幼稚園以外の場所でも高齢者に挨拶ができる(1)
		周りの人みんなと積極的に関われる(1)
		新しい発見(2)
		新しい発見(1)

られた。世代間交流の目的として、保育者の半数以上が園児たちの【楽しい時間】であると捉えていることが示された。

B5 では保育者が交流にあたり準備していることについて尋ね、Table 7 にまとめた。各自が〈歌〉や〈お話〉、活動のための〈道具〉などを常に用意し、交流に備えていることが伺える内容となった。

4. 考察

4-1. 世代間交流についての保護者の認識

回答の記述をしていたほとんどの保護者から、【良い取り組み】としての評価が上げられた。良い面としては、〈新しい知識の獲得〉にまつまると子どもの学びや視野の広がり、〈子どもの精神面での発達に良

い経験〉にまつまると情緒面を含む精神面での発達が述べられており、それらはそれぞれ知育と徳育として有効な取り組みとして認識されていたことが考えられる。内容については「昔遊び」、「折り紙」といった伝統的な遊びを体験できることを多くの保護者があげており、文化や伝統の維持に関する世代間交流の役割を認知しているものと考えられた。また世代間交流に期待する内容については、相手に対する優しさや思いやり、敬う心の育成など、徳育の側面が期待されていることが明らかになった。一方、デメリットを指摘する声も約2割あり、特に感染症やセキュリティの問題を指摘する声が多く、交流の内容以前に交流を行える態勢にまず配慮することが重要であることが示唆された。

Table 7 (B5) Teachers' preparations for intergenerational exchanges

大カテゴリー	中カテゴリー	概念
出し物(28) 58.3%	歌(25)	わらべ歌(8)
		手遊び(8)
		子どもたちと一緒に歌の練習(6)
		分かりやすいふれあい遊び(2)
	歌のCD(1)	
	ダンス(1)	子どもたちのダンス(1)
	お話(2)	紙芝居(1)
		ペープサート(1)
遊び(6) 12.5%	製作(5)	ペンダント製作(2)
		ぬりえ(2)
		折り紙(1)
	身体を動かす(1)	風船(1)
環境整備(6) 12.5%	空間(1)	高齢者が休めるスペース作り(1)
	道具(5)	道具の準備(4)
		備品の補充(1)
施設との連携(3) 6.3%	予備知識(1)	高齢者の事前調査(1)
	連絡(2)	感染症の確認(1)
		施設との事前連絡(1)
専門性向上(5) 10.4%	自己研鑽(5)	双方が楽しめることをいつも考えている(3)
		即に乗しめることを常に準備(1)
		歌や手遊びの研究(1)

4.2. 世代間交流についての保育者の認識

保育者は世代間交流について【感情】、【体験】、【知識】に関して評価しており、特に高齢者への思いやりや優しさ、いたわりの気持ち等、徳育に関して世代間交流の意義を認めていることが明らかになった。また世代間交流に期待する内容については、過半数が〈スキンシップ〉や〈おしゃべり〉などのふれあいを通した【楽しい時間】と答え、保護者の期待とは若干の乖離が見られたことが特徴的であった。一方で、時間的な【保育への影響】や、高齢者に対する礼儀や接し方など【交流することでの心配】、子どもの【心理的な負担】を危惧する声があったものの、視点を変えればこれは交流を考える際に留意すべき点として考えられ、十分な事前の準備や対策が必要なことを示唆している。交流の準備について道具や題材を答える保育者がほとんどであったが、本質的な準備や対策についても留意することが重要と考えられる。

5. おわりに

本論文は、世代間交流についての保護者と保育者の意識を調査した。世代間交流を経験した子どもの言動の変化や報告から、保護者は世代間交流の認識を深化させ、実際の交流経験を通して自分の子どもがどのように成長してほしいかを具体的に期待する

ようになることが分かった。その一方、交流のデメリットの認識もつよようになることが明らかになった。保育者もまた、交流を通した具体的な幼児の成長を根拠として、世代間交流のメリットを認識していることが分かった。また保育者は、特別な準備をするなど創意工夫を行いながら交流に臨んでいることが示された。

保育における世代間交流の教育としての可能性は、本研究の結果より示唆されたのではないかと考えられる。しかしながら冒頭述べたように、多くの保育者の世代は核家族世代であり、高齢者との交流経験の機会も十分ではないと推測される。より良い世代間交流のカリキュラム構築に向けて、検討を行う際にその経験不足を補う手立てが求められ、今後の課題として、例えば保育者養成や保育者になったばかりの段階で、高齢者との世代間交流についての学びやトレーニングを行うことなどの、検討と検証が必要であると考えられる。

【付記】

本稿は筆者の修士論文及び、2017年8月26日に行われた北海道子ども学会第22大会と2018年5月12日・13日に行われた日本保育学会第71回大会での口頭発表の一部を、加筆修正したものである。

[注]

- 注 1) 厚生労働省が 65 歳以上を「前期高齢者」としていることから、本論文でも高齢者を 65 歳以上とする。
- 注 2) 幼児と高齢者に限定した交流を、「世代間交流」または単に「交流」と表記する。

[引用文献]

- 1) 総務省統計局：統計トピックス No.121 統計からみた我が国の高齢者, (2019), <https://www.stat.go.jp/data/topics/topi1210.html> (2019/9/16 閲覧)
- 2) 総務省統計局：統計トピックス No.120 我が国のこどもの数, (2019), <http://www.stat.go.jp/data/jinsui/topics/topi1201.html#aI-1> (2019/10/10 閲覧)
- 3) 厚生労働省：平成 29 年国民生活基礎調査, (2019) <file:///C:/Users/Owner/AppData/Local/Microsoft/Windows/INetCache/IE/H08ZO31S/02.pdf> (2019/10/10 閲覧)
- 4) 菅谷泰行：老人福祉施設における世代間交流に関する実態調査報告 介護福祉学, 21(2), 122-129 (2014)
- 5) 文部科学省：平成 28 年度幼児期の教育内容等深化・充実調査研究「幼稚園を核とした地域との連携充実に関する調査研究」研究の内容(みつば幼稚園), (2017), <file:///C:/Users/Owner/AppData/Local/Microsoft/Windows/INetCache/IE/H08ZO31S/28rihu.pdf> (2019/9/22 閲覧)

